

令和5年度

新潟市立学校園授業改革パイロット事業 実践事例

幼保こ小の学びをつなぐ架け橋期のカリキュラム開発

【研究主題】

幼稚園・保育園と小学校とが互いに学び合う架け橋プログラムの具現化

新潟市立沼垂幼稚園 園長 青木 博子
研究主任 中村 真紀

1 研究実践の内容

- (1) 資質・能力を育む保育の充実と、具体的な学びの履歴の作成
- (2) 具体的な学びの履歴に基づく情報共有と感想の交流（架け橋会議の実施）
- (3) それらを踏まえた架け橋カリキュラムの作成（第1step から第4step へ）

2 実践事例

- (1) 資質・能力を育む保育の充実

① 研究保育研修

遊びの中で夢中になって探究する子どもの姿の具体や学びについて、また、子どもの興味・関心の見取りや夢中になる姿を引き出す環境構成及び教師の援助について検討する。幼児期だからこそ大切にしたい子どもの探究する姿や育ちつつある資質・能力を確認することで、その学びを1年生へとつなげる。

白梅学園大学名誉教授 無藤隆先生、東海大学准教授 宝來生志子先生、新潟県立大学講師 中川久美子先生、新潟市教育委員会学校支援課 本間浩之様 志田江利子様を招聘し、研究保育を実施し、「教師の援助や環境構成」の具体についてご指導いただく。研究保育と協議を通して、園が目指す資質・能力を育成するアプローチカリキュラムに基づく、実際の園児の姿を検証する。

【研究保育の実際】

- i) 第1回研究保育【年中組】令和5年6月22日 指導者：宝來生志子様
- ii) 第2回研究保育【年少組】令和5年7月11日 指導者：中川久美子様
- iii) 第3回研究保育【年少組】令和5年11月1日 指導者：本間浩之様
志田江利子様

※ 保育指導案は、別紙参照

② 講演会及び園内研究ご指導

令和5年9月15日 白梅学園大学 名誉教授 無藤 隆様

講演会「幼児教育と小学校教育をつなぐ架け橋プログラムとは」

- 乳幼児期の学びと小学校以降の学びの特徴の違い
- 乳幼児期の学びの必要性
- 架け橋カリキュラムを開発する方略
- 特に幼児教育として、1年生として行うこと

県内幼児教育施設、小学校、新潟市教育委員会からの参加者へオンライン配信

【園内研究ご指導】

- 遊びの中での課題の焦点化について
- 目的意識と沼垂幼稚園が目指す資質について
- 子どもとともに面白い教師の姿勢について

③ 先進的保育実践園の研究会における研修

令和5年12月2日 ソニー幼児教育支援プログラム最優秀園実践発表会

- 保育参観及び環境視察
- 研究発表
- 他県参加者とのグループセッション
- 聖徳大学 教授 河合 優子様による講演

「幼児の学びを考える」

先進的な保育実践を行う中央の幼稚園の研修会の代表者参加と報告による、職員間での情報共有をした。先進的な保育実践園から具体的な環境構成や教師の援助を学び、客観的に自園の保育実践を見つめ直した。

(2) 架け橋会議の実施

沼垂小学校・沼垂幼稚園・沼垂保育園の校長、架け橋プログラム推進担当者による、具体的な学びの履歴に基づく情報共有と感想の交流

- i) 事前説明会 4月6日
- ii) 第1回 6月28日
- iii) 第2回 11月8日
- iv) 第3回 2月19日

(3) 架け橋カリキュラムの作成

- ① 文部科学省が推進する「架け橋カリキュラム」の具現化を目指し、第1stepから第4stepまでの学びの連続性を重視した園の独自形式によるカリキュラムを作成する。主な活動のまとまりについて、実践後に「学びの履歴」として整理するとともに、小学校との協議を通して、具体的な学びやその連続性について共有する。
- ② アプローチカリキュラム（学びの履歴）第1step~第3stepの作成

「学びの履歴」については、第1 step から第3 step における共通の活動を前期と後期で抽出・分析し、学年間の遊びや学びのプロセス及び各学年において大切にすべき子どもの姿や教師の援助を明確にする。そして第4 step へとつながるカリキュラムを作成する。

※ 令和4年度「学びの履歴」、令和5年度「学びの履歴（更新中）」は、別紙参照

3 成果と課題

(1) 成果

- 幼稚園教育要領、学習指導要領作成に携わり全国の動向を知っている講師、また、幼保こ小接続において中央の先進的な実践者であり指導者である講師の指導により、当園のカリキュラム及び保育実践について、大いに見直すことができた。

幼児教育の基本に立ち返り、幼児期だからこそ大切にしたい子どもの姿や育ちつつある資質・能力について職員間の共有を図ることができた。

- 小学校・保育園と、「学びの履歴」について具体的な子どもの姿や教師の指導等、情報や感想交換を行うことを通して、幼児期に育まれた資質・能力が小学校の具体的な場面で生かされていることを共有し、子どもの具体的な学びの姿のつながりや教師の指導を学び合うことができた。学びの第1 step から第4step のつながりを確認することができた。

(2) 課題

- 園の目指す資質・能力の育成に向けて、子どもが心を動かし、興味・関心を深めたり広げたりして探究するプロセスを一層大切にしたい質の高い保育を目指し、幼児理解と教材研究を深める。また、園庭や地域などの身近な環境を見つめ直し、カリキュラムの改善につなげる。
- 架け橋プログラムの取組において、各学年の「学びの履歴」を更新する。とくに前年度とは異なる活動についても抽出し、各 step において大切にしたい姿や資質・能力のつながりを具体的に考える。

別紙Ⅰ

令和 5 年度 保育案

【本時のねらい（◎） 内容（○）】

- ◎ やりたいことを見付け、教師や気の合う友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる。
- やりたいことを見付け、思い付いたことをしたり、遊びに必要なものを作ったりして遊ぶ。
- 教師や友達のやっていることをまねたり、一緒にやろうとしたりする。

【○環境構成・教師の援助 ◆意図】

- 前日に作ったものや小道具などは、当日に続きができるように片付けの際に置く場所を決めて置く。
- ◆ 登園後に前日の遊びを思い出し、自分からすぐに遊び出せるようにする。
- 子どもが遊ぶ様子（人数や遊び方など）を見ながら、テーブルの向きや遊びの空間の大きさを変える。物をたくさん扱って場が雑然としている時には使わなくなったものを片付け、場を整理する。
- ◆ 子どもの遊びの動線を確保する。また、友達の遊びの様子がよく見えるようにする。
- 製作の場には、これまでに扱ったことのある素材（紙棒・画用紙・折り紙・カラー段ボール・紙テープ・ビニールテープ・空き箱・カップ・芯材・お面ベルト）は分類し、手に取ることができるように置く。また、子どもの必要感に応じて十分な量を提示できるように用意しておく。
- ◆ 遊びに必要なものを見付け、自分のやりたい遊びに取り入れられるようにする。
- 遊びの終わりや学級活動時に、どんなことをしていたのか、またどんなふうにしようとしているのかをみんなに知らせる時間をつくる。
- ◆ どの子どもにも友達の遊びの様子が伝わるようにする。

⑦ お店屋さんやお姫様のホテルごっこなど

- テーブルクロスやカーテンになる布やレース、お面ベルトやスカートなどを用意する。
- ◆ 友達と一緒にになりたいものになったつもりになって遊ぶことができるようにする。

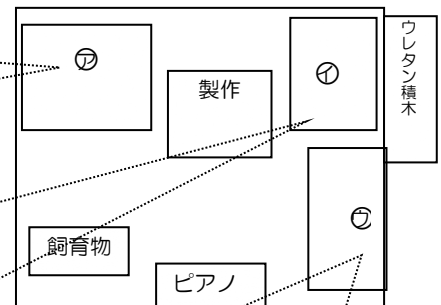
⑧ 博物館（恐竜博）など

- 遊びの中で作った小道具（望遠鏡やえさ、ハンマーなど）は遊びの場に置き場をつくる。子どもが描いた恐竜などの生き物の絵を描いたり切ったりすることができるスペース（ミニテーブル）を作る。
- ◆ 遊びに必要な道具（恐竜や恐竜のお世話道具など）を思い付いたときに自分ですぐに作ったり、作ったもので遊んだりすることができるようにする。
- 教師はお客さんのつもりになって、動いたり言葉のやり取りをしたりすることを楽しむ。
- ◆ 教師がまずは楽しそうに遊び、周りの子どもたちにも興味・関心が広がるようにする。

⑨ トミカステーション・ピタゴラススイッチなど

- はさみで切ることができる厚さの段ボール板や細めのガムテープなどを手に取ることができる場所に置いておく。周りが雑然としないよう、スペースを確保する。
- ◆ 自分でじっくりと考えながら取り組むことができるようにする。

<さくら組 保育室>



【抽出見□について】

- 本児の興味・関心のあるものについて、知っていることを聞いたり尋ねたりしながら会話を楽しむことを通して、まずは教師が本児のイメージしているものを共有し、必要な物を一緒に用意する。また、本児のイメージしていることが周りに伝わるような絵本や写真などを見ることができるよう用意する。
- 製作面では、具体的な手の動かし方のモデルになったり、さりげなく補助をしたりしながら、自分の力でできていると感じられるようにする。
- 友達と同じものを持ったり同じように動いたりして、子ども同士で遊び始めたときには、教師は一步引いて見守る。必要に応じて同じイメージの中での声掛けをする。

【評価の視点】

- やりたいことを見付け、思い付いたことをしたり、遊びに必要なものを作ったりして遊んでいたか。
- 教師や友達のやっていることをまねたり、一緒にやろうとしたりしていたか。

新潟市立沼垂幼稚園 年少組 保育案

令和5年7月11日（火）9：00～10：00

【本時のねらい（◎） 内容（○）】

- ◎ 安心して自分のやりたいことをして遊ぶ。
- やりたいことを見付けて自分から関わり、繰り返して遊ぶ。
- 教師や友達のしていることに興味や関心をもち、まねたり、同じ場で遊んだりする。

【○環境構成・教師の援助 ◆意図】

⑦ 星や流れ星のつもりになって遊ぶ

【物的環境】

星のお面、星のステッキ、様々な星型、お面ベルト、紙棒など

- 星のお面や流れ星のステッキなどをすぐに遊べるように出しておく。
- ◆ 楽しさを思い出しながら、自分で身に着けたり、つもりになって遊んだりできるようにする。
- 想像の世界を一緒に楽しみ、そのつもりになって動いたり、話したりして遊ぶ。
- ◆ 想像の世界に浸りながら、教師や友達と一緒にそのつもりになって遊ぶことを楽しめるようにする。

⑧ 車や電車、お家などに見立て遊ぶ

【物的環境】

ソフト積み木・段ボールの囲い・牛乳パックの囲い
牛乳パックの積み木 など

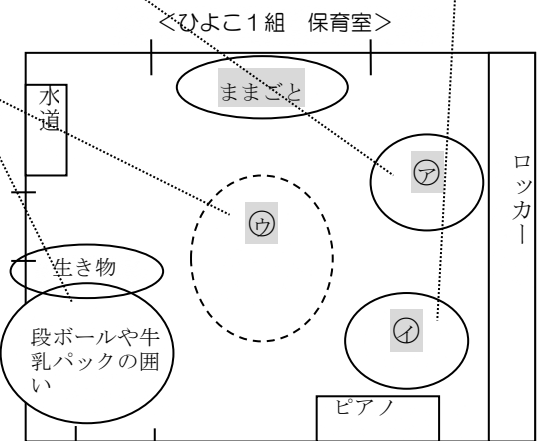
- 子どもたちの手の届く場所に置いておく。子どもたちの様子を見ながら、前日までの遊びの環境をさりげなく出しておいたり、残しておいたりする。
- 空間を広めに空けておく。
- ◆ 楽しさを思い出しながら、子どもたちが自分で遊びたい場をつくったり、つくった場で遊んだりできるようにする。
- ◆ 教師や友達の姿を見ることができるようになる。
- 子どもたちがつくった場で同じようにそのつもりになって遊んだり、やりとりを楽しんだりする。
- ◆ 楽しい雰囲気をつくり、教師や友達と同じ場で遊んだり、同じことをしたりする楽しさを感じられるようにする。

⑨ 製作

【物的環境】

廃材・芯材・○△□の色画用紙・プラカップ・紙棒
・○シール・クレパス・ストロー・お面ベルト・紙テープ・星型など

- 素材は子どもたちの手の届く場所に分類して出しておく。
- ◆ やりたい時に、様々な素材に触れながら、自分なりに見立てたり作ったりすることを楽しめるようにする。
- 作ったり見立てたりした物を受け止めたり、教師も同じ物を作って遊んだりする。
- ◆ 自分なりに作ったり見立てたりした物を使って遊ぶ楽しさを感じられるようにする。



全体

- 子どもの遊びの様子を見ながら、動線を確認し、遊びの場を整理する。（使わなくなった物を片付ける、子どもの動線を空けるなど）
- ◆ 教師や友達がしていることを感じ、興味や関心をもてるようにする。
- 友達との関わりの中で、思うように遊べずに思いのままに行動したり、口調や行動が強くなったりする姿が見られた時には、一人一人の思いをよく聞き、関わりに必要な言葉を伝えたり、代替案を出したりする。
- ◆ 教師と一緒に、自分の思いを言葉で表現できるようにする。また、教師に支えられながら、気持ちを切り替えて遊び出せるようにする。

抽出児（児）に対して

- 前日まで楽しんでいた環境を用意し、本児が遊び出すまで待つ。遊び出すまでに時間が掛かる姿が見られた時には、教師が本児の視線や動きからやりたいことを探り、さりげなく誘ったり、一緒に遊んだりし、遊び出すきっかけとなるようにする。
- 興味や関心をもって遊び出した時には、教師と一緒に楽しむことで、安心して遊ぶことができるようにする。また、遊び出した場や楽しんでいることを保障し、自分のやりたいことを繰り返し楽しめるようにする。

【評価の視点】

- やりたいことを見付けて自分から関わり、繰り返して遊んでいたか。
- 教師や友達のしていることに興味や関心をもち、まねたり、同じ場で遊んだりしていたか。

【本時のねらい（◎） 内容（○）】

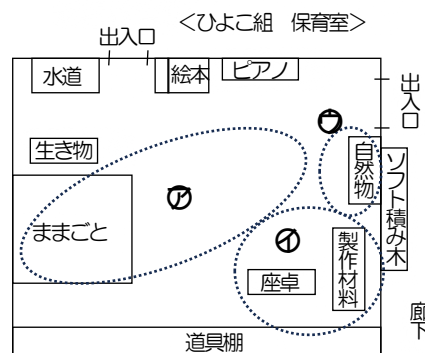
- ◎ 教師や近くにいる友達の様子を感じながら、やりたいことをして遊ぶ。
 - 教師や友達のしていることに興味をもち、まねてやってみようとする。
 - 自分なりに作ったり、作ったもので遊んだりして楽しむ。

【○環境構成・教師の援助 ◆意図】

- 不安な様子で登園した子に寄り添い、身支度を一緒にしたり、気持ちを切り替えられるように関わったりする。
 - ◆ 担任同士連携を図り、一人一人がやりたい遊びを見付け、気持ちが切り替えられるようにする。
- 遊びを見付けられない子や、興味はあるが自分から関われない子には、表情や視線をくみ取り、教師が関わりをきっかけをつくる。
 - ◆ 教師が自分の気持ちを分かってくれる安心感から友達に向かって気持ちを開き、遊び始められるようにする。
- 子どもが遊ぶ様子（人数や遊び方など）を見ながら、テーブルの向きや遊びの空間の大きさを変える。物をたくさん扱って場が雑然としている時には使わなくなったものを片付け、場を整理する。
 - ◆ 子どもの遊びの動線を確保する。また、友達の遊びの様子が見えるようにする。
- 子ども同士で遊び始めたときには、教師は一步引いて見守り、場や教材などを整える。
 - ◆ 友達と同じものを持ったり同じように動いたりできるようにする。
- トラブルの場面では、必要な経験と捉え、しばらく見守り、状況を把握する。必要に応じて教師が仲介役となったり、代弁したり補ったりする。
 - ◆ 教師と一緒に、自分の思いを言葉で表したり、相手の気持ちを知ったりできるようにする。また、教師に支えられながら、気持ちを切り替えて遊び出せるようにする。

⑦ 見立てたり、～のつもりになったりして遊ぶ（大型バス、プリンセスごっこ、レストランなど）

- 前日の片付けの際に、段ボールの囲いやソフト積み木など、子どもたちと一緒に片付け、保育室の中央に空間を空けておく。
 - ◆ 教師や友達と一緒に場を作りながら思い付いたことを話したり、友達に興味・関心をもったりできるようにする。
- 作ったものや遊びに必要な道具などをすぐに遊べるように出しておく。
 - ◆ 楽しさを思い出しながら、自分で身に着けたり、～つもりになってやりとりをしたり、なりきったりして遊べるようにする。
- 見立てたり、～のつもりになったりして遊ぶ気分や思いを受け止め、教師も表し手となって一緒に遊ぶ。
 - ◆ 子どものつぶやきや思いを拾い、言葉にすることで、教師や居合わせた友達とのひと時が心地よくなるようにする。
 - ◆ 簡単なやりとりを取り入れながら、友達を意識して遊ぶ楽しさを味わえるようにする。



◎ 自然物を取り入れて遊ぶ

- 木の実や葉などの自然物を種類ごとに分けておく。
 - ◆ 形や色の違いに気付いたり、遊びに取り入れたりしやすいようにする。

⑧ 作りたいものを作って遊ぶ

- これまでに扱ったことのある素材（紙棒・画用紙・折り紙・カラー段ボール・紙テープ・ビニールテープ・空き箱・カップ・芯材・お面ベルト）は分類し、手に取ることができるように置く。また、子どもの必要感に応じて十分な量を提示できるように用意しておく。
 - ◆ 遊びに必要なものを見付け、自分のやりたい遊びに取り入れられるようにする。
- はさみやセロハンテープなどの使い方を個に応じて支援する。
 - ◆ 作りたいものが作れるようにする。

【抽出席について】

- 自分で気持ちを表しながら場や友達に関わっている時には、見守り、本児の表しを褒めたり、アイコンタクトをとったりし、自信をもって表せるようにする。

【評価の視点】

- 教師や友達のしていることに興味をもち、まねてやってみようとしていたか。
- 自分なりに作ったり、作ったもので遊んだりして楽しんでいたか。

別紙2

令和 4 年度 学びの履歴

令和 5 年度 学びの履歴

		かかわる力の基盤づくり												学びの芽生え								
月		4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月										
新潟市の重点	子どもの姿	友達に気持ちを伝え、遊びを進める。																				
	経験してほしい重点内容	目的をもち、友達と互いに思いや考えを伝え合い、遊びを進めることを楽しむ。																				
	互いの思いや考えを共有したり、折り合いを付けたりする。【3 協同性、4 道徳性・規範意識の芽生え】	友達や教師と遊ぶ中で自分の思いや考えを言葉などで表して遊ぶ。			友達と同じような目的に向かって一緒に取り組む。			友達と意思を出し合いながら協力して遊びに取り組み、充実感を味わう。			自分で考えたり友達と声をかけ合ったりして時間を意識しながら生活しようとする。											
	意思表示ができるとともに、言葉を通して思いを伝え、相手の言葉を理解する。【9 言葉による伝え合い】							友達と一緒に遊ぶ中で思い通りにならなくても気持ちを切り替えて遊んだり、トラブルになっても折り合いを付けたりしようとする。			クラスの友達と修了に向かって考えたり工夫したりしながら気持ちを共有し、活動する。											
	成長を自覚し、小学校生活に期待をもつ。【2 自立心、5 社会生活との関わり】							友達（グループ）と同じ目的をもって取り組む中で、自分なりのイメージを言葉で表現したり、教師や友達の話の聞いたりして課題を乗り越えようとする。			園での楽しかったことや小学校へ行ったら楽しみなことを周りの人と伝え合う。											
								自分の思いや考えを友達に分かるように話したり、友達の話の聞いたりして理解しようとする。			行事等の参観に来た小学校職員と顔見知りになることを喜ぶ。					自分のことができるようになった成長や自立を自覚し、自信をもつ。						
											小学生との交流を通して、小学校に対して親しみや憧れをもつ。			小学校を訪問し、小学校の環境を知る。			生活習慣の確立や生活のリズムを整え、小学校生活への見通しをもつ。					
R4 学びの履歴	〇 活動のねらい	〇 教師や気の合う友達と一緒に遊ぶ中で、自分の思いを伝えようとしながら遊びを進める。 〇 友達と一緒に活動し、満足感を味わう。			〇 グループの一員としての意識をもち、友達と一緒に野菜の世話をする。 〇 野菜の様子に興味・関心に向け、気付いたことを伝え合ったり、自分なりに考えたり調べたりする。			〇 友達と考えを出し合い、自分たちで工夫しながら遊びの場を作る。 〇 遊びの場にお客さんを招待し、相手に分かるように伝えたり工夫したりする。			〇 同じ目的に向かう中で、友達と考えを伝え合い、自分たちで遊び方を工夫しながら取り組む。 〇 自分の力を十分に発揮し、様々な動きに繰り返し挑戦する。			〇 友達と思いや考えを伝え合いながら、目的に向かって一緒に製作に取り組むことを楽しむ。 〇 様々な素材や用具の使い方を考えたり、工夫したりしながら、イメージしたものを表現する。			〇 なりたいものになって、動きや言葉や工夫しながら、友達と一緒に表現することを楽しむ。 〇 自分たちの劇をみんなで作り出すことを目的に、思いや考えを伝え合いながら活動に取り組む。			〇 友達と思いや考えを伝え合い、受け入れたり取り入れたりしながら遊ぶ。 〇 目的に向かって、素材や道具を工夫したり、試したりしながら取り組む。		
	活動名・内容	こいのぼり遊び ・ こいのぼりが風にたなびく様子を見たり、様々なサイズのビニール袋を使って、風を感じながら遊んだりした。 ・ 実際のこいのぼりに触れ、大きさや模様などの特徴に気付いたり伝え合ったりした。また、切り開いたこいのぼりを友達と一緒に被って遊んだ。 ・ こいのぼりの子どもをグループの友達と一緒に製作し、被って遊んだり戸外で泳がせたりした。			野菜栽培 ・ グループの友達と一緒に決めた野菜の苗を植え、水やりをしたり生長の様子を見たりした。 ・ 野菜の茎・葉・花・実などの特徴に五感を通して気付く。友達や教師と伝え合った。 ・ 学校のみんなで、カラス対策や風対策などを考えたり、身近な人に尋ねたりして、様々な方法を試した。 ・ 収穫の時期や方法をなどを、調べたり考え合ったりした。 ・ 他学年の子どもや職員に収穫を知らせたり、収穫した野菜を給食に入れてもらって味わったりした。			夏祭り ・ 自分たちが楽しんでいる遊びに他学年の友達を招待するために、必要な場や物を製作した。 ・ やりたいことや役割などを相談した。 ・ 遊び方を分かりやすく伝えられるよう、工夫しながらお客さんに関わった。			運動会 ・ リレー、玉入れ、綱引き、段ボール積み、ラダー渡り、巧技台上り等ができる道具を使って遊び、自分たちで遊び方を考えたり、ルールを作ったりして取り組んだ。 ・ チームで対戦し、勝敗の喜びや悔しさを味わったり、互いに励ましや応援をした。 ・ 自分たちで振り付けを考えたり、教え合ったりしながら、みんなで踊った。 ・ 自分の力を精一杯に出しながら、走ったり、体を動かす満足感を味わった。			製作表現活動 ・ ロボットや映画、ミニチュアハウス、動く顔など、個々の興味・関心から、同じように興味・関心をもった友達と一緒に製作を楽しんだ。 ・ より本物らしくなるよう、仕掛けを考えたり、試したりしながら取り組んだ。 ・ これまで扱ったことのある素材の他に、新しい素材を取り入れ、自分で色や形等を選んで組み立てたりしながら、自分のイメージしたものになるように工夫した。			生活発表会 ・ みんなの好きな物語のイメージでやり取りを楽しんだり、必要な道具を作った。 ・ 道具の仕掛けを考えたり、セリフや動きを工夫しながら取り組んだ。 ・ 友達と役割を分担したり、一人でいつもの役を引き受けたりしながら、協力して必要な役を演じた。また、友達の動きを見ながらタイミングを合わせて話したり動いたりして表現をした。 ・ 影絵での表現を取り入れ、光や影の特性に気付いたり、効果的に取り入れる方法を考え合ったりした。 ・ 友達と教え合ったり、手を貸し合ったりしながら、みんなで劇の表現活動を進めた。			光と影遊び ・ 太陽光で影絵ができることに気付いて、窓際や廊下で様々な素材の影を映して遊んだ。 ・ 影に色をつけるために、様々な素材や色水等を使って、繰り返し試した。 ・ CD、オーロラペーパー、ホイルペーパー、プラスチックアクリルなど、映してみたいものを家から持ってきて試した。 ・ 豆まきの会に向けて、「ももたろう」の人形影絵に取り組んだ。その中で、友達と役割を分担し、登場人物の操作の他、色出しやナレーター、キラキラ担当など、劇を構成する様々な役の必要性に気付いて積極的に役割を分担した。 ・ 園生会に向けて、プラネタリウムに取り組んだ。自分の発見した光の表現方法を取り入れた。友達の思い付いた方法を取り入れながら同じ役割の友達と一緒に試しながら取り組んだ。		
	* 子どもの育ち(10の姿)	① 健康な心と体 ② 自立心 ③ 協同性 ④ 道徳性・規範意識の芽生え ⑤ 社会生活との関わり ⑥ 思考力の芽生え ⑦ 自然との関わり・生命尊重 ⑧ 数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚 ⑨ 言葉による伝え合い ⑩ 豊かな感性と表現			* このこいのぼりの大きさや形、模様などの特徴に気付く。言葉で伝え合った。(⑧⑨) * 学級の全員でこいのぼりを振り、異学年の子どもに見せに行くことで一体感や充実感を味わった。(③④⑩) * グループの友達と考えを出し合いながら、工夫してこいのぼりの特徴を表現しながら製作した。(③⑥⑩) * 友達の思いを知ったり、自分の思い通りにないことがあることを感じたりしながら、グループの友達と折り合いをつけて活動に取り組んだ。(③④⑨)			* 自分たちの楽しんでいる遊びの場で楽しんでもらえるよう、必要な場や物を工夫して作った。(③⑥⑨) * 目的をもち、意欲的に準備をした。(②③) * 自分の役割を感じながら、相手の立場に立って考えたり行動したりした。(②④⑨)			* 体を十分に動かして満足感を味わった。(①) * 友達と、考えを出し合い、相談したり、遊び方を工夫したりして取り組んだ。(③⑥⑨) * 数量の違いや速さ・大きさ等に気付く、比べたり知らせ合ったりした。(②⑥⑧) * チームの一員として、協力したり励ましたりし合いながら友達と一緒に勝敗のある遊びに取り組んだ。(③④⑨⑩)			* 実現したいものの形や接合方法を考えながら製作した。(⑥⑧⑩) * 素材の特性に気付く、必要な道具を選びながら、製作に取り組んだ。(⑥⑩) * うまくいなくても、友達と気付いたことを言葉で伝え合い、試しながら遊んだ。(③④⑨) * 友達と一緒に製作したものを思い、役割を分担しながら取り組んだ。(③④) * 分からないところを友達に聞いたり、自分が分かることを教えたりしながら製作に取り組んだ。(③④⑨⑩)			* なりたいものになり、自信をもって言葉や動きで表現した。(②⑨) * 友達と考えを出し合い、仕掛けのある道具を作った。(③⑨) * 自分のできることを互いに教え合ったり手を貸し合ったりして劇の表現に取り組んだ。(③④⑨⑩) * 光と影の特性や効果に気付く、試しながら表現を楽しんだ。(⑥⑦) * 友達と役割を分担して、みんなで劇を作り出す充実感を味わった。(③④)					
	◆ 教師の援助・環境構成	◆ 本物のこいのぼりを用意し、想像を膨らませながら遊んだり、気付いたことを伝え合う時間を保障した。 ◆ 子どもと一緒に、こいのぼりを作り開き、子どもが被って表現する様子やiPadを活用し、共有した。 ◆ 遊ぶ中で、子どもの必要感に応じて、製作に必要な材料(カラービニール袋・折り紙・画用紙等)を用意した。 ◆ 子ども同士が思いを伝え合えるよう、きっかけ			◆ 栽培物の生長や特徴に興味・関心に向け、知りたいことを、身近な人に聞いたり調べたりした。(⑤⑥⑦) ◆ グループの一員として、互いに声を掛け合いながら野菜の世話をした。(③⑨) ◆ 思うようにならないことがあった時、気付いたり考えたりしたことを友達や教師と伝え合った。(⑥⑨) ◆ 学校のみんなで収穫できるよう、自分の気持ちを表現したり、友達と折り合いを付けたりした。(③④⑨)			◆ 個々の興味・関心を捉えながら、発想や思い付きを学級のみんなに紹介したり、夏祭りの遊びに活かす場面を設けた。 ◆ 他学年の友達を招待する日を「夏祭り」として意識付け、カレンダーを用いたり、学級で話し合う機会を設けたりしながら期待を高められるようにした。 ◆ これまで自分が楽しんできた遊びの場を担当できるように配慮し、自信をもって行動できるようにした。 ◆ 意欲的に声を掛ける姿や、相手のことを考えて行動する姿を個々に認めた。			◆ バトン、玉入れのかご、玉、綱、段ボール等を用意しておき、子どもが遊びながら必要に応じて遊び方を考えていまで見守った。 ◆ 必要に応じて話し合いの場を設け、子ども同士の気持ちや考えを整理したり、ホワイトボード等を用意して状況が分かるようにして、話し合いに活用したりした。 ◆ 話し合いの場面では、互いに納得いまで思いや考えを伝え合う時間を保障した。 ◆ 仲間の一員として参加し、一緒に考えたり気持ちを共有したりした。 ◆ 個々の運動面の発達を見極め、様々な挑戦の場を設定した。少し頑張れば達成できるような場となるように工夫した。			◆ 様々な接合材料やこれまで扱ったことのある素材等を手に取れるところに置いておいた。また、見当たらない素材は一緒に探した。 ◆ 新たな素材の提示をし、子どもがどのように製作に取り入れるのを見守ったり、アイデアを周りの友達と共有できるような場をつくった。 ◆ 学級活動の中で、実現しようとしていることを尋ねたり聞き返したりしながら共有した。 困ったことや実現できずの喜びなどを知らせるきっかけをつくった。 ◆ 本物らしくするためにタブレットで本物を見たり、情報を知らせ合ったりした。			◆ 一つ一つの表現で実現したいことを学級の場で共有し、相談する場を設けた。 ◆ 互いの役の表現を見合ったり、時には動画撮影をして客観的に自分たちの表現を見ることができるようにした。 ◆ カレンダーやホワイトボード等を活用して、自分の役割が分かるようにしたり、見通しをもって準備ができるようにしたりした。 ◆ 新しい表現方法(影絵)を取り入れ、子どもたちが遊びながら劇の表現に取り入れる時間を保障した。			◆ 様々な素材(透明感のある素材や光る素材など)を手に取ることができる場所に置いたり、子どもが自由に探しに行くことができるような雰囲気づくった。 ◆ 光と影の遊びについて、子どもが経験していることを便利や障園時に保護者に知らせた。子どもが家庭から持ってきたものを受け入れ、遊びの中で試すことができるようにした。 ◆ それぞれが発見した現象を残すことができるよう、タブレットを手に取れるところに置き、子どもが自由に撮影できるようにした。また、印刷してドキュメンテーションにして掲示した。 ◆ いつでも光で遊ぶことができるよう、多目的室を暗くしておいた。また、子どもが自由に扱える懐中電灯を用意した。 ◆ 課題にぶつかった時には学級みんなで話し合いの時間を設けた。実際にやってみながらうまくいく方法を考えられるようにしたり、思いを伝えたりできるようにどのような考えでも受け入れたりした。		

学年目標 いろいろな人・もの・ことに興味・関心をもち、安心してやりたいことに取り組む。							主体的・対話的で深い学び				
月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
期	1期（3歳4～5月）		2期（3歳6～7月）		3期（3歳9～10月）		4期（3歳11～12月）		5期（3歳1～3月）		
発達の道筋	教師や幼稚園の環境に親しみ、気持ち安定していく。		教師や身近なものとの触れ合いの中で、しだいに周囲に目を向けていく。		園生活に安心し、自分のやりたい遊びを十分楽しんでいく。		教師や友達のしていることに興味をもち、触れ合いながら遊ぶ楽しさを感じていく。		教師や友達と遊ぶ中で、自分の思いを表現しながら、幼稚園生活を楽しむようになる。		
ねらい	○ 教師や幼稚園の環境に親しみ、喜んで登園する。 ○ 教師が近くにいることで安心し、やりたいことを見付けて遊ぶ。 ● 身の回りのことや園での生活の仕方を知る。		○ 安心して自分のやりたいことをして遊ぶ。 ● 身の回りのできることを教師と一緒にやってみようとする。 （※身の回り：日常生活に必要なもの）		○ 教師や近くにいる友達の様子を感じながら、やりたいことをして遊ぶ。 ○ 周りの環境に目を向け、興味をもつ。 （※ 周り：周囲、周辺という意味で使用する） ● 身の回りのできることを教師と一緒にやってみようとする。（継続）		○ 安心して自分の思い付いたことを表現して遊ぶ。 ○ 周りの遊びに目を向け、教師や友達と一緒にいることを喜ぶ。 ● できるようになったことを喜び、身の回りのことを自分でやろうとする。		○ 思い付いたことを言葉や動きで表現する。 ○ 一緒に遊ぶ友達に思いを表現しながら一緒に遊ぶ。 ● できるようになったことを喜び、身の回りのことを自分でやろうとする。（継続）		
活動名 ○活動のねらい											
*子どもの育ち (10の姿)											
①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現	夏祭り ○ 年長児や年中児の遊びに参加させてもらい、興味や関心を広げる。 ○ 教師や友達のしていることに興味をもち、作ったり、見立てたりしながら遊ぶ * 年長児との関わりの中で、刺激を受け、興味関心を広げた。（①⑩） * 教師や友達と一緒に祭りの遊びの場をつくった。（②③） * 見立てやすい素材をきっかけに、自分なりに遊びに必要なものを作ることを楽しんだ。（②⑥） * 友達の作っているものややっていることを自分なりにまねたり、「わたしもやりたい（ほしい）。」と教師に要求を伝えたりし、やりたいことに取り組むことができた。（①②③⑨⑩） * 年長児、年中児と一緒に遊ぶ中で、友達への関わり方やみんなで遊ぶために必要なルールを感じ取り遊んだ。（③④） * 同じ学年の友達や担任以外の友達や教師との関わりを喜んだ。（①）										
											



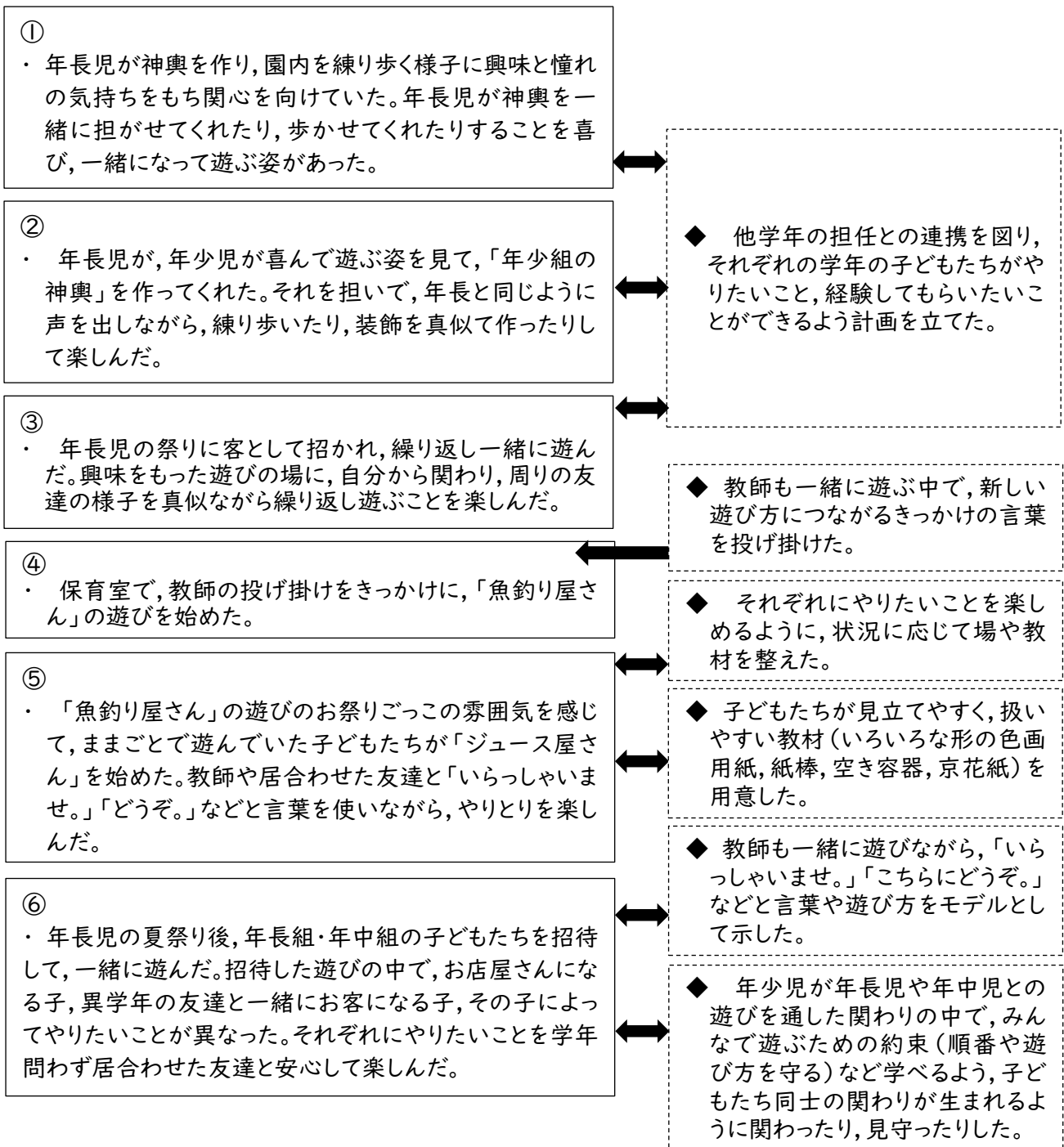
学年目標 ○主体的に試したり工夫したりしながら、友達と一緒に活動に取り組む。							主体的・対話的で深い学び				
月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
期	6期（4歳4～5月）		7期（4歳6～7月）		8期（4歳9～10月）		9期（4歳11～12月）		10期（4歳1～3月）		
発達の道筋	進級した新しい場や生活に慣れ、 さまざまなことに取り組むよう になる。		教師や友達と一緒に遊ぶ中で、 友達と関わる楽しさを感じていく。		気の合う友達と関わりをもち、な らぬに遊ぶ楽しさを感じるように なる。		気の合う友達と遊ぶ中で、自分 の気持ちを言葉で表現するようにな る。		思い付いたことを積極的に表現し、自分から環境や 友達に働き掛けて遊ぶようになる。		
ねらい	○ 新しい環境に慣れ、教師や友達に親 しみをもち、安心して過ごす。 ○ 自分のやりたいことを見付けて遊び ながら、周りの友達や遊びに関心を向ける ● 年中組の生活の仕方を知り、身の回 りのことをやろうとする。		○ やりたいことを見付け、教師や気の 合う友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる。 ○ 身近なものに意欲的に関わり、感触 や事象の面白さを感じる。 ● 生活の仕方や約束が分かり、できる ことを自分でやろうとする。		○ 気の合う友達と関わりながら、自分 のやりたい遊びを十分に楽しむ。 ○ 思い付いたことや感じたことなどを、 自分なりの言葉や動きで表現する。 ● 遊びや生活に必要な約束が分かり、 守ろうとする。		○ 友達と一緒に場や必要なものを作っ て遊ぶ。 ○ 気の合う友達との関わりの中で、自 分の思い付いたことや感じたことなどを 言葉や動きにして表現する。 ● 遊びや生活に必要な約束が分かり、 守ろうとする。（継続）		○ いろいろなことに興味をもち、自分なりに遊びに取り入 れる。 ○ 気の合う友達と思いや考えを表現し合いながら遊ぶ。 ○ 友達と同じような目的に向かって一緒に取り組む。 ● 遊びや生活に必要な約束が分かり、守ろうとする。（継 続）		
活動名 ○活動のねらい			夏祭り ○ 教師や友達のやっていることに興味・関 心を持ち、まねたり一緒にやろうとしたりす る。 ○ いろいろな素材に触れ、自分なりに描い たり作ったりすることを楽しむ。								
*子どもの育 ち (10の姿)			* 年長児のお店ごっこの中で、遊び方や相 手への関わり方などを見たりしながら、憧れ の思いを高めた。また、遊び方をまねて年長 児や年少時に関わろうとした。(②④) * 友達と一緒にかき氷や屋台の形や色など を考えながら作った。(③⑥⑩) * やり方が分からなかったり一人ではでき ないことがあったりした時には、友達に必要 な言葉を掛けて、手を借りながら一緒に取り 組む充実感を味わった。(③④⑨) * 様々な用具や素材に触れ、思い付いたこ とを試す中で、物の性質を感じ、自分なりに 工夫しながら繰り返し遊んだ。(②⑥) * 自分の思い付きで遊びが面白くなったこ とや、そのことを教師や友達に認められたこ とで、満足感を味わった。(②③⑩)								
①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範 意識の芽生え ⑤社会生活との 関わり ⑥思考力の芽生 え ⑦自然との関わり ・生命尊重 ⑧数量や図形・ 標識や文字など への関心・感覚 ⑨言葉による伝 え合い ⑩豊かな感性と 表現				 							

学年目標 ○共通の目的に向かい、友達と思いを伝え合いながら活動に取り組む。							主体的・対話的で深い学び				
月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
期	11期（5歳4～5月）		12期（5歳6～7月）		13期（5歳9～10月）		14期（5歳11～12月）		15期（5歳1～3月）		
発達の道筋	年長組に進んだことを喜び、 自覚をもって生活するようになる。		友達の良さを感じながら、同じような目的に向かって遊びを進めていく。		自分たちの目的に向かって、友達と考えを出し合ったり試したりし、遊びが充実していく。				学年の友達と共通の目的に向かって、主体的に生活を 進めていく。		
ねらい	○ 年長組になったことを喜び、期待をもって遊んだり生活したりする。 ○ 友達や教師と遊ぶ中で、自分の思いや考えを言葉や動きなどで表現して遊ぶ。 ● 生活に必要なことを、自分から進んで行う。		○ 友達と同じような目的に向かって、一緒に取り組む。 ○ 思ったことや考えたことを友達に伝えながら遊ぶ。 ● 生活に必要なことを、自分から進んで行う。（継続）		○ 友達と共通の目的に向かい、思いや考えを伝え合いながら取り組む。 ○ 自分の力を十分に発揮し、様々なことに挑戦しながら遊ぶ。 ● 園生活に見通しをもち、必要なことに気付いて取り組む。		○ 友達と共通の目的に向かい、思いや考えを伝え合ったり受け入れ合ったりしながら取り組む。 ○ 友達と一緒に試行錯誤しながら、やりたいことを実現しようとする。 ● 園生活に見通しをもち、必要なことに気付いて取り組む。（継続）		○ 友達と思いや考えを伝え合いながら新しい目的を見出し、 て取り組み、充実感を味わう。 ○ 自分の実現したいことに向かい、遊び方を工夫しながら 諦めずに取り組む。 ● 園生活に見通しをもち、必要なことに気付いて取り組む。 （継続）		
活動名 ○活動のねらい	野菜栽培 ○ グループの一員として友達と一緒に野菜の世話をする。 ○ 野菜の栽培に興味・関心を持ち、気付いたことを伝え合ったり、自分たちで調べたりする。 * 土作りから収穫まで栽培物の生長や特徴に興味・関心に向け、知りたいことを身近な人に聞いた り、図鑑やタブレットを活用して調べたりした。また、図鑑で調べる際に、もくじで探すことを知り、活用していた。（⑤⑥⑦⑧） * グループの一員として、またほし組の栽培物という意識があり、互いに声を掛け合いながら野菜の世話をした。（③⑨） * 突発的な出来事に対しても、友達同士で気付いたり考えたりしたことを伝え合い、解決していこうとしていた。また、試してみたことについては友達同士で成果を確認していた。（②③⑥⑨） * 夏休み中の野菜の世話について心配する声があり、自分たちで解決策を考えた。「先生野菜の水やりお願いします」（⑤⑦）		夏祭り ○ 友達と考えを出し合い、自分たちで工夫しながら遊びの場を作る。 ○ 遊びの場にお客さんを招待し、相手に分かるように伝えたり工夫したりする。 * 自分たちの楽しんでいる遊びの場で年中組や年少組、おうちの方々が楽しんでもらえるよう必要な場や物を工夫して作った（③④⑧） * 祭りの準備を進めていく中で不都合さが出てくるが、友達と試行錯誤しながら自力解決していた。（③④⑥⑨） * 目的を持ち意欲的に準備をした。（②③） * イメージを共有できるように、神輿作りでは設計図を作成し、それを基に作っていった。（③⑨⑩） * 自分の役割を感じながら、相手の立場に立って考えたり行動したりした。（②④⑨）								
*子どもの育ち (10の姿)	①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現										
											

3歳児 夏祭り（令和5年5～7月）

【遊びや学びのプロセス】

【◆環境構成と教師の援助】



【子どもの育ち(10の姿)】

- * 年長児との関わりの中で、刺激を受け、興味関心を広げた。(①⑩)
- * 教師や友達と一緒に祭りの遊びの場をつくった。(②③)
- * 見立てやすい素材をきっかけに、自分なりに遊びに必要なものを作ることを楽しんだ。(②⑥)
- * 友達の作っているものややっていることを自分なりにまねたり、「わたしもやりたい(ほしい)。｣と教師に要求を伝えたりし、やりたいことに取り組むことができた。(①②③⑦⑩)
- * 年長児、年中児と一緒に遊ぶ中で、友達への関わり方やみんなで遊ぶために必要なルールを感じ取り遊んだ。(③④)
- * 同じ学年の友達や担任以外の友達や教師との関わりを喜んだ。(①)

4歳児 夏祭り（令和5年5～7月）

【遊びや学びのプロセス】

①5～6 月

- ・ 年長児の作ってくれたお神輿を担いだり、全園児と一緒に園内を練り歩いたりした。また、年長児のお店ごっこにお客として招かれ、一緒に遊んだ。

②7 月初旬

- ・ 実際の祭りの経験から、かき氷や屋台を作り始める子どもがいた。徐々に一緒にやろうとする子どもが増え、時折言葉を交わしながら同じ場で作ったり試したりした。

③

- ・ 綿に着色をしたり、キラキラテープを細かく切ったりして自分なりに素材や色を選び、かき氷らしくるように作った。

④

- ・ 木製積木や段ボール板を構成しながら、土台や屋根を作った。一人ではうまくできない部分があり、友達に抑えてもらいながら接着した。また、倒れた屋根を固定するため、小箱を使って直した。

⑤

- ・ 素材を扱い、思い付いたことをしながら遊ぶ中で、偶然にかき氷シロップが出る簡単な仕掛けができ、繰り返し遊んだ。

⑥

- ・ 年長児の夏祭り後、年長組・年少組の子どもたちを招待して、自分たちのつくったお店で一緒に遊んだ。年長児の夏祭りのお化け屋敷をまねようとして自分たちなりのお化け屋敷もつくった。

【◆環境構成と教師の援助】

◆ 他学年の担任と連携し、子どもたちの思いの高まりに応じてお店やお客になって遊ぶ時間を保障した。

◆ これまで扱ったことのある素材の他、新しい素材（キラキラテープ・ストロー・綿・マジックペン等）を手にとることができる場所に提示した。

◆ 「手伝って」「教えて」など、子ども同士で取り組むために必要な言葉を知らせたり、実際に声を掛けるきっかけをつくったりした。

◆ やってみたいことに取り組む姿を見守ったり、子どもの思い付いたことをまねて一緒に面白がったりした。

【子どもの育ち（10の姿）】

- * 年長児のお店ごっこの中で、遊び方や相手への関わり方などを見たりしながら、憧れの思いを高めた。また、遊び方をまねて年長児や年少児に関わろうとした。（②④）
- * 友達と一緒にかき氷や屋台の形や色などを考えながら作った。（③⑥⑩）
- * やり方が分からなかったり一人ではできないことがあったりした時には、友達に必要な言葉を掛けて、手を借りながら一緒に取り組む充実感を味わった。（③④⑨）
- * 様々な用具や素材に触れ、思い付いたことを試す中で、物の性質を感じ、自分なりに工夫しながら繰り返し遊んだ。（②⑥）
- * 自分の思い付きで遊びが面白くなったことや、そのことを教師や友達に認められたことで、満足感を味わった。（②③⑩）

5 歳児 野菜栽培 (令和5年4月～7月)

【遊びや学びのプロセス】

①

- ・ グループの友達と一緒に何を育てるかを決め、プランターの土作り、植え方や育て方を調べ、苗植えを行った。

②

- ・ 「ぼくたちは野菜のお父さんとお母さんだ」という意識をもち、栽培過程で必要なこと(水やり、支柱立てなど)を協力して行い、生長の様子を教師や友達と伝え合った。

③

- ・ 学級で風や病気の対策などを考え、身近な人に尋ねたり、親子で調べたりしたことを言葉や描画で説明して対策を行った。「やっぱりこれでよかった」と友達同士で成果を確認し合った。

④

- ・ 初収穫をする。五感を通して野菜の特徴を知り、教師や友達と伝え合った。

⑤

- ・ 他学年の子どもや職員に収穫を知らせ、収穫した野菜を給食に入れてもらい味わった。

⑥

- ・ 夏休み中の野菜のお世話について話し合った。「先生、私たちの代わりに野菜のことをよろしくね」と栽培物を大切にすることを言葉で伝えていた。

【◆環境構成と援助】

- ◆ グループの子どもたちの考えを取り入れて野菜の苗を選んだ。

- ◆ 土作りから栽培の仕方まで図鑑やタブレットの活用や、家族や身近な人に尋ねるきっかけを作るようにした。家庭で調べてきたことを紙面にした資料については、掲示して誰でも見ることができるようにした。

- ◆ うまくいかない場面を捉え、子どもが気付くまで待ったり、みんなで考え合う時間を設けたりした。

- ◆ 栽培物への愛情や大切にすることができるよう、野菜のお父さんとお母さんは年長組だという気持ちをもてるように日々言葉掛けを行った。

【子どもの育ち(10の姿)】

* 土作りから収穫まで栽培物の生長や特徴に興味・関心を向け、知りたいことを身近な人に聞いたり、図鑑やタブレットを活用して調べたりした。また、図鑑で調べる際に、もくじで探すことを知り、活用していた。(⑤⑥⑦⑧)

* グループの一員として、またほし組の栽培物という意識があり、互いに声を掛け合いながら野菜の世話をした。(③⑨)

* 突発的な出来事に対しても、友達同士で気付いたり考えたりしたことを伝え合い、解決していこうとしていた。また、試してみたことについては友達同士で成果を確認していた。(②③⑥⑨)

* 夏休み中の野菜の世話について心配する声があがり、自分たちで解決策を考えた。「先生野菜の水やりお願いします」(⑤⑦)

①健康な心と体②自立心③協同性④道徳性・規範意識の芽生え⑤社会生活との関わり⑥思考力の芽生え
⑦自然との関わり・生命尊重⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚⑨言葉による伝え合い⑩豊かな感性と表現

5歳児 夏祭り（令和5年4～7月）

【遊びや学びのプロセス】

【◆環境構成と教師の援助】

①4～6月

- ・アイス作りを始めた子どもがいた。様々な素材を扱いながらより本物らしくおいしそうに見えるアイスができた。
- ・お店の動く看板やお客さんの並びやすい矢印をつくり、年少児や年中児を招いた。
- ・本物らしいパンやハンバーガーなど、様々な食材づくりをしてはお店を開いた。

- ◆ 個々の興味、関心を捉え、発想や思い付いたことが実現できるよう、教師も仲間の一人となり、ともに考える場面を作った。
- ◆ 魅力的な場になるような道具の提案をした。
- ◆ 興味・関心に応じた素材を厳選しつつ、多種類用意した。

②7月初旬

- ・年中組のかき氷屋さんの仕組みに興味・関心をもち、実際に水を入れてジュースが出る仕組みを試行錯誤しながら友達と一緒に作った。

- ◆ ジュース屋さんにより本物に近付けたいという思いから、実際に水を使って作ろうとする姿を見守った。何度も失敗を繰り返しながら、子どもたちが自力解決し、実現していく姿を称賛した。

③

- ・水がこぼれたりボトルが床に落ちたりして失敗を繰り返しながら、自分たちで考えたり、工夫したりしながらより良い方法を考え出していた。

④

- ・地域の祭りを経験した子どもが多く、神輿作りやゲーム屋さん、お化け屋敷等、祭りの再現を始めた。興味が同じ友達が集まって考えたことを伝え合いながら作っていた。神輿作りは設計図を基にみんなで作り上げた。

- ◆ 神輿作りではイメージを共有することができる設計図の提案をした。

⑤

- ・祭りごっこが学級の共通の目的になり、必要な物を場に並べたり、コーナーを作ったりするなど、役割分担しながら準備を進めていた。

- ◆ ジュースの色が鮮明に見えるように、白のプラスチックプレートを貼る、神輿作りに必要な扱いやすい段ボールを用意する、遊びの場をつきルームに広げる、祭りのBGMを流すなど、雰囲気作りを大事にした。

⑥7月下旬

- ・ほし組夏祭りに年中組や年少組を招待した。その後、おうちの人も祭りに招待し、一人一人が自分の役割を最後までやり遂げた。

【子どもの育ち（10の姿）】

- * 自分たちの楽しんでいる遊びの場で年中組や年少組、おうちの方々が楽しんでもらえるよう必要な場や物を工夫して作った（③⑥⑧）
- * 祭りの準備を進めていく中で不都合さが出てくるが、友達と試行錯誤しながら自力解決していた。（③④⑥⑨）
- * 目的を持ち意欲的に準備をした。（②③）
- * イメージを共有できるように、神輿作りでは設計図を作成し、それを基に作っていった。（③⑨⑩）
- * 自分の役割を感じながら、相手の立場に立って考えたり行動したりした。（②④⑨）

①健康な心と体②自立心③協同性④道徳性・規範意識の芽生え⑤社会生活との関わり⑥思考力の芽生え
⑦自然との関わり・生命尊重⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚⑨言葉による伝え合い⑩豊かな感性と表現